研究会創立の思い出

顧問（元理事長）　**柴田重孝**

動物用抗菌剤研究会が創立30周年を迎えたことは，この研究会の創立から係わっていた一人として，感慨深いものがあります。

顧みますと，この研究会が創立された昭和48年当時，わが国は戦後復興，東京オリンピックそして万国博も終え，高度成長期路線を邁進している真っ最中でした。畜産においても，生産性の改善，安定的な生産を目指し，大規模・多頭羽集団飼育が進みだし，従来の庭先飼育から近代的畜産への脱皮が図られておりました。それにともない，畜産経営や家畜管理技術の重要性が認識されるとともに，今まではあまり問題とされなかった呼吸器や消化器などの慢性疾病による生産性低下が畜産経営に大きな被害を与え，問題となってきました。これに対応するため，官民をあげての疾病の解明および対策資材の開発，海外からの技術導入が図られ，その結果，各種ワクチンおよび抗菌剤が開発・実用され，疾病による被害の軽減に大きく貢献し，その恩恵は現在も受け継がれています。

家畜への抗菌剤使用が普及するにつれ，獣医領域の技術者からは耐性菌の出現による投薬効果の低減が懸念されだし，一方，人の医療関係者からは家畜への抗菌剤投与が耐性菌の出現を促し人の医療に悪影響を及ぼすとの問題が提起されるようになりました。

当時，私は農林省家畜衛生試験場長として，試験場の小平から筑波学園都市への移転といった大きな課題に取組んでおりました。また，国の食品衛生調査会，中央薬事審議会のメンバーでもあり，動物用医薬品に関する審議会の委員長を勤めていたので，消費者団体などから厳しい意見をいただいておりました。この様な状況のなか，行政からも「耐性菌の出現機構や実態，出現し難い使用法」について幅広く検討して欲しいとの要請を受けました。

そこで，家畜衛生の研究者，抗菌剤の開発・製造・販売に携わる技術者，第一線の臨床獣医師，公衆衛生分野の研究者および行政の担当者などが集り，動物用抗菌剤と耐性菌について幅広く議論・研究することを目的に「家畜の耐性菌研究会」を創立することになりました。関係する各分野で活躍されていた先生方に理事をお願いし，理事長には家畜衛生に係わる研究，行政面で優れた経歴をお持ちで人望も厚かった川島秀雄先生（当時，東京農業大学教授）が選任されました。事務局は農林省家畜衛生試験場から母校・日本獣医畜産大学に戻られ耐性菌に関する研究を精力的に始められた高橋　勇先生に引き受けていただきました。私も理事，そして昭和58年4月～平成3年3月まで理事長を勤めさせていただきましたが，理事の方々と本研究会のあり方などについて色々と議論し，本研究会の名称変更をも行い，毎年，有意義なシンポジウムの開催や関係資料を配布することができました。この，30年の間にあった色々な出来事，多くの先生方の顔が次々と懐かしく思い出されます。

家畜への抗菌剤使用と耐性菌に係わる問題は学会のみならず，国際政策，行政的にも極めて難しい課題となっており，今後も世界的に幅広く多くの研究，議論がなされることでしょう。わが国における本研究会が担っている役割は益々重要となっています。今後とも本研究会の発展を願っております。